

第3回 IEEJ Global Energy Webinar 開催のご案内

弊所では、海外の著名なエネルギー専門家によるオンラインセミナー“IEEJ Global Energy Webinar”を、下記の通り開催(配信)します。

第3回目となる今回は、国際エネルギー機関(IEA)が先月5月27日に発表した年次報告書“World Energy Investment 2020”を、IEAのエネルギー供給・投資見通し担当部長で、同レポートの監修責任者でもあるティム・グールド氏より、IEA本部のあるフランス・パリからオンラインで概説いただきます。モデレーターは弊所の首席研究員で常務理事の小山堅が務めます。

2020年の世界経済は、新型コロナウイルスが世界で猛威を振るい続ける中、大恐慌以来最大の落ち込みと見込まれており、感染拡大防止のための「都市封鎖」などによる「ヒト」「モノ」の移動の制限や国際旅客・運輸需要の著しい低下と相まって、世界のエネルギー需要に甚大な影響を及ぼしています。エネルギー需要の大幅低下は、国際市場において未曾有の供給過剰をもたらす、資源価格急落も背景として、資源開発中断等で計画されていた投資が後退しつつあります。

2020年のエネルギー関連投資について、IEAは今回の最新のレポートにおいて、部門別(石油・ガス、石炭、電力、省エネ等)、主要国・地域別の詳細な分析とともに見通しを示し、世界全体では過去最大の下落幅となる前年比2割減まで落ち込むとしています。レポート発刊の際の声明でファティ・ビロルIEA事務局長は、「投資の急減により、雇用や経済的機会だけでなく、景気が回復すれば必要となるであろうエネルギー供給も喪失することになる」との警鐘を鳴らしたほか、再生可能エネルギー分野への投資も減少するとの見通しを示しつつ、「必要とされる持続可能なエネルギー分野への移行を妨げるおそれもある」との懸念を示しています。

今回紹介するレポート“World Energy Investment”は、IEAが2016年より毎年発刊し今回で第5版を数える、エネルギー関連投資動向をカバーしたフラッグシップレポートになります。今回は、昨年2019版のデータの更新に加えて、現下の厳しい情勢の下、エネルギー企業がどのように投資戦略・財務戦略を見直しつつあるのか、投資家がどのようにリスクを再設定しつつあるのか、という観点からの特集も組んでいます。

IEAのエネルギー投資に係る見方を直接伺える貴重な機会となります。ご参加の皆様との質疑応答の時間をご用意いたしますので、どうぞ奮ってお申し込みの上、ご参加ください。

スケジュール:

<16:00~16:05 開会・イントロダクション>

<16:05~16:40 講演>

“World Energy Investment 2020”

国際エネルギー機関(IEA)エネルギー供給・投資見通し担当部長 ティム・グールド氏
(Tim GOULD, Head of Division, Energy Supply and Investment Outlooks, World Energy Outlook, INTERNATIONAL ENERGY AGENCY (IEA))

<16:40~16:50 コメント> コメンテーター 弊所 理事 山下ゆかり

<16:50~17:10 質疑応答> モデレーター 弊所 首席研究員 常務理事 小山堅

<17:10 終了>